学びの風便り

リーディングスクール通信４７　R7.8.6

発行：松本市教育委員会　教育研修センター

学びの改革のあゆみ　丸ノ内中学校・中山小学校

丸ノ内中学校　「忠恕の時間」の取組と職員研修の工夫

丸ノ内中学校では、学校として大事にしたい資質・能力である「予測困難な未来を生きる力」の育成を目指して、一昨年度より「忠恕の時間（総合的な学習の時間）」において、生徒一人ひとりが自らの興味・関心をもとに問いを立て、仲間と協働しながら思考を深める探究的な学習に取り組んでいます。

研究を始めた一昨年度の年度当初には、まず、職員の現状を把握するために、職員アンケートを実施したところ、約８割の職員が「忠恕の時間の支援に不安を感じている」と回答しました。この結果を受けて、教員の指導力向上と支援体制の強化を目的に、職員研修を重視して取り組んでいます。

《 年度ごとの取組 》

○ 一昨年度（１年目）

教員のスキルアップを目的に、数学科教員による「箱ひげ図」を用いた研修や、外部講師を招いて実施した「松本の街歩き」サマーセミナーを通じて、統計処理の方法や地域への視野を広げました。

○ 昨年度（２年目）

生徒の思考プロセスを教員自身が体験することを目的に、「職員探究」に取り組みました。その中で、教員が自らの興味・関心に基づいてグループを組み、問いの解決に向かうための生徒の思考を支える枠組みである「PPDAC サイクル」を基盤としながら探究活動を実施し、成果をポスターセッションで共有しました。これらの一連の活動は、支援者としての視点と学習者としての視点を行き来する貴重な経験となりました。

○ 今年度（３年目）

これまでの実践から、中学生にとって「問いを立てる」こと自体が高いハードルであることが見えてきました。興味や疑問を探究的な学びへと構造化するには、教員による支援が欠かせません。そこで、本年度は生徒が「リサーチクエスチョン」として、探究的な学びに取り組めるようにするため、教師自身が質の高い問いかけができるようになることを目的とし、「忠恕の学習内容シート」作成研修を実施しました。このシートは、学年ごとに１枚作成され、縦に講座名、横に学習時期を配置しています。これを全職員が「いつごろ、どんな学びができそうか」を具体的に思い描きながら入力します。その上で、目の前の生徒の状況により、シートの内容を随時更新することで、個々に応じた「リサーチクエスチョン」の設定が可能となりより深い探究へと繋がるよう支援しています。

※リサーチクエスチョン・・・切実かつ現実的な課題に気づいて探究していくための問い

今年度の生徒の姿

６月に実施した「１日忠恕」では、3年生のあるグループが「男子トイレにサニタリーボックスを設置すべきではないか」という問いで探究活動を行いました。2年生の時に「まちづくり」を大テーマに松本市内を歩く中で、居心地の良い空間や快適なトイレ環境が街の魅力と深く関わっていることに気づいたことがきっかけです。さらに、修学旅行先の京都では、京都市のまち美化推進課の方と交流し、すべての公共の男子トイレにサニタリーボックスが設置されている現状を知り、自らの問いが社会的意義を持つことを実感していきました。現在、このグループは市内の公衆トイレや施設の実態調査を進めながら、地域住民や医療従事者へのインタビュー、統計データの分析を通して、身体的・心理的な支援の視点から設置の意義をさらに深めようとしています。

今後も丸ノ内中学校では職員研修や校内研究を通じて、生徒が自ら問いを立て、継続的に探究する過程で、「自分たちの行動が社会を変えていく」ということを実感しながら進められる『生徒エージェンシー※』を高め、その先の「予測困難な未来を生きる力」を育む学習を支え続けていきます。

※エージェンシー…「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」

中山小学校　　職員研修を真ん中に、楽しく専門性・同僚性を高め合う

これまでリーディングスクールとして、全校での「探究の学び」の実践をしてきた中山小学校。3年目を迎えるにあたり、重点として「探究」をベースとした「インクルーシブの実現」「教科横断の学びへの挑戦」の2点を決めだし、新たな歩みを踏み出しました。

中山小学校の学校づくりは、「職員研修」を中核において進められています。令和7年度は、年間 10 回、水曜日を「職員研修日」とし、子どもたちは給食後に下校、午後の時間に公開授業や研修会を行っています。これらの研修が先生たちにより主体的・計画に営まれているのも、中山小学校の強みです。

この「職員研修」を軸に、1学期の中山小学校の学校づくりの歩みをご紹介したいと思います。

「自分ごと」として、ともに授業を構想

5月。「教科横断の学び」「インクルーシブの実現」二つの研究グループが、それぞれの公開授業の構想の検討をしました。それぞれの授業者の先生が語る「願い」や子どもたちの様子を踏まえ、先生方がフランクに対話を重ねながら授業づくりを行う「チューニング」のスタイルが中山小では定着しています。リラックスした雰囲気の中で熱心な語り合いが交わされます。「余計な一言を言っちゃうと『探究』じゃなくなっちゃう…」というつぶやきなど「子どもの意識を大事にして授業を創ろう」というスタンスが先生方に共有されているのが感じられます。

「子ども観」を磨き合う

6月。「インクルーシブ」グループの先生による授業公開です。中山小学校では、子どもたちが自分のやり方で心行くまで「探究する」ためには、一人一人が「よさ」を認められながら安心して「自分らしく学ぶ」ことが不可欠と考え、それが豊かに両立する授業づくりをみんなで目指しています。公開授業でも、子どもたち一人ひとりへの先生たちの温かいまなざし、思いに寄り添った支援、そしてこれまでに培われてきた子どもたちの温かい関係性が、豊かな学びを支えました。

授業後の研修会では、先生たちが授業中に撮影した写真をもとに、それぞれがとらえた「自分らしく探究する子どもの姿」を交流しました。さらに授業での子どもの姿をベースにした指導主事の話を聴き「インクルーシブな教育環境づくり」の視点を共有しました。先生たちがとらえた子ども一人一人の「思い」と「学びのよさ」が響き合う温かい時間となりました。

「授業への参画」を通して学びあう

7月には「教科横断の学び」グループが授業を公開。社会見学を控えた子どもたちが自分が調べた場所についてクイズを作成、参観の先生たちに「おためし実施」しフィードバックを得て、参観日での実施にむけて改善を図る授業です。先生たちのアドバイスを受け、すぐにみなおし検討を始めるなど、意欲いっぱいの子どもたちでした。

授業後には研究主任佐藤先生が市教委指導主事と共同企画した研修を実施しました。前半は3つのグループに分かれて先生たちがそれぞれとらえた子どもの学びの姿を交流します。前回に引き続き重ねることで、先生たちの子どもの学びのとらえ方の深まりを感じます。研修の後半は、子どもへのフィードバックのあり方を検討するワークショップを実施。授業でのフィードバックの経験から生まれた豊かな対話を通して「フィードバックの際に大切にしたいこと」への気づきが整理されました。

研修に参加している中山小の先生たちは、いつもリラックスした雰囲気で、熱心に語り合いつつ、各グループからは笑い声が絶えません。先生たちにとって研修が特別なものではなく、日常になっている「深み」を感じるところです。中山小の先生たちは、子どもたちが「主体的で挑戦的になってきている」という手応えを実感しています。子どもたち・先生たちが呼応しながら、ともにシンカを深める中山小学校です。